

学校法人 法泉寺学園
令和6年度 事業報告書

課題

- ① 保育内容と園児数確保
- ② 新遊具の選定
- ③ 人材確保

報告

- ① 令和元年度以降、年度による多少の増減はあるものの園児数は年々減少している。日本全体が少子化の波の中にあることと共働き世帯が増えて保育園を希望する家庭が増えていることが原因と考えられる。そうした少子化の中にあっても栗生幼稚園ならではの保育内容の発信や、両親が仕事をしている子ども（2号子ども）の受け入れ可能人数を増やすなどの対策を講じたことで、令和6年5月現在で70名と前年と比較して10名程度増やすことができた。同時に、利用定員をこれまでの240名から200名に変更したことで、子ども一人当たりの補助金単価が増額され、補助金収入を増やすことができた。今後もこうした努力を積み重ね、栗生幼稚園の魅力をしっかりと発信して園児を確保しつつ、補助金などの収入確保にも努めていきたい。
- ② 運動場への新しい遊具設置から職員室改修工事に方針を変更し、数社に設計を依頼して選考を進めていたが、最終的に「時設計（ときせつけい）事務所」に設計を依頼することを決定した。今後は、理事で設計士の小路氏と相談しながら、花谷建設（工事）・箕面電設（設備）・日興商会（家具・ITC）と協力して、令和7年8月の完成を目指して工事を進めていく。また、幼稚園東側のひょうたん池が宅地化され、お寺で所有している隣接地が一部造成されて平地になって返還されたため、幼稚園の職員駐車場として利用することにした。更に駐車場としての機能を充実させるため、駐車場と園庭を階段で移動できるようにした。
- ③ 職員の定着率はよく、一度退職した職員の復職も多い。また、昨年10月の最低賃金の改定に伴い、パートの時給をそれまでの1,000円/時から1,300円/時に改訂し、令和7年4月からは正職員の給与も定期昇給+12,000円程度の賃上げを行い、待遇面での魅力がアップできたと自負している。しかし、令和7年3月末日に様々な事情から5名の職員が退職し、新年度を迎えるにあたってそれを補えるだけの人員確保ができなかった。今後は、各方面に情報を発信して正職員やパートの採用を随時行って人材の確保に努めたい。